

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4271402143
法人名	有限会社みずほ福祉サービス
事業所名	グループホーム みずほ野
所在地	〒859-1212 長崎県雲仙市瑞穂町西郷己797番地 (電 話) 0957-61-8001

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855－0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月18日	評価確定日	平成20年12月3日

【情報提供票より】(平成20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5.1 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000～15,000 円	その他の経費(月額)	実費、光熱水費 6,000 円
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要 (4月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	56 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	前田医院・よこた医院・瑞穂歯科医院・ねぎ歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

島原半島グリーンロード沿いの自然に囲まれた当ホームは、その環境に溶け込む外観、施設を備えている。広々とした敷地には事業主が造園業も携わられておられるということで、自然を活かした美しい造作がなされ、建物も開設4年を過ぎた今も木の香りが残る木材をふんだんに使われたもので、暖かな癒しの空間がそこかしこで提供されている。管理者はかつて施設で経験を積み、そこで感じた思いから、自然の癒しと介護のマンパワーを合わせたサービスの理想を求め、開設以来日々研鑽に努めている。入居者がデッキに出て水音を愉しむ庭園、露天風呂まで備えた屋外設備もさることながら、野菜畑も広く営まれ「自然の癒し」を十分に楽しめる備えの中、スタッフのサービスの質の向上にも常に管理者は配慮している。現場のマンパワーを大切と考え、ケア研究会などでのネットワークに積極的に関わりながら、職員のケアの均質化に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の指摘をうけて、運営推進会議議事録の見直しと工夫、災害時の備蓄に関する書類などは検討中であり、自己評価への全員での取り組み、共に食事を楽しむ支援に関する取り組みにおいては改善に至らなかった。今後は改善計画シートを活用し、より積極的に取り組んでいくことに期待したい。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義と活用に関しては、運営推進会議や全体会議において周知と理解を深めるよう努めているが、自己評価の作成は今回は管理者が中心となり記入され、職員全員での取り組みには至らなかった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回、家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員、施設長、職員を参加メンバーとして会議を開催している。昨年度評価の改善指摘に基づき会議議事録は会議の流れが分かりやすい形でとられ、活発な意見交換の様子をうかがい知ることができる。今後も地域との付き合いにおいて、行事参加、災害時の連携を図るべく会議の場を活用する方向において前向きである。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 要望箱、苦情処理委員会の設置の他に、管理者が家族に対して常に意見傾聴の姿勢を持っている。管理者の携帯電話宛に直接家族からの意見が寄せられた際には、すぐに職員全員へ報告し職員会議において検討した結果を家族へ伝えるといった誠意ある対応がなされている。要望箱へは家族ばかりでなく職員からケアに関する提案が寄せられたこともあり、日々の支援に対する真摯な姿勢がうかがえる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 周辺環境は住宅地とはいえ、日常的な近隣との付き合いは少ないながらも、管理者がホーム傍に居を構え中心となって地域の自治会活動に参加し、積極的に交流を行っている。年2回の芋掘りには参加を呼びかけ、収穫物をお分けして好評を頂くなど、今後もホームの行事へ地域住民参加の呼びかけを前向きに検討している。また、地域の小、中学校の福祉体験学習の受け入れも行っている。

特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「『老後を自分の力で快適に過ごしたい』と思う。人間の自立の心と体を少しでも多く、『真心と癒しの心』で社会や家庭復帰へのお手伝いをいたします。」の文言を開設以来の理念としている。昨年の評価での指摘も受けて、より日々の支援に沿った、地域密着型を捉えたスローガンを現在検討中である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はじめ職員に浸透している日々の支援における思いは、「入居者、職員皆が幸せに、快適に過ごしたい」であり、職員会議などにおいても「自分の立場に立って考える。自分自身が、親が入りたくなるホームを作りたい」ということを繰り返し確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周辺環境は住宅地とは言えず、日常的な近隣との付き合いは少ないながらも、管理者がホーム傍に居を構え中心となって地域の自治会活動参加を通じて交流を行っている。年2回の芋掘りへは参加を呼びかけ収穫物をお分けし好評を頂くなど今後もホーム主催行事への地域住民参加をより前向きに検討している。地域の小、中学校の福祉体験学習の受け入れも行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月の職員全体会議において評価についての説明は行ったが、自己評価への取り組みは管理者一人で行った。昨年度の評価を受けて改善への取り組みがなされたものもあるが、改善計画シートの作成は行われていない。	○	評価の意義と活用方法を再確認し、自己評価を個々の職員の研鑽の機会と捉えて、全員が取り組むことが望ましい。また、改善へのプロセスを確認、明示できるように改善計画シートを活用し、会議において全員で取り組む機会をもって、評価結果をサービスの向上へ役立てていくことに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、家族代表、地域包括支援センター職員、民生委員、施設長、職員を参加メンバーとして会議を開催している。昨年度評価の改善指摘にも基づき会議議事録は会議の流れがわかりやすい形でとられ、活発な意見交換の様子が窺える。今後も地域との付き合いにおいて、行事、災害時の連携をはかるべく会議の場を活用する方向に前向きである。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者で公的制度の利用をされている方がおられるため、相談、連絡で福祉事務所とは行き来の機会がある。また入居者の身元引き受け人になっていただいた保健婦へは継続して近況報告を行うなど、きめの細かな対応、連携に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度発行され家族宛に送られる通信は、毎年職員が交代で作成にあたり各自の個性、思いも伝わっている。誕生日の通信には管理者自ら個別にコメントを寄せお送りしている。入居者の近況報告は面会時に口頭で伝える他に、状況に応じて電話でも伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望箱、苦情処理委員会の設置の他に、管理者が常に意見傾聴の姿勢をもち、管理者の携帯電話へ家族からの意見が寄せられた際は、職員全体へ報告し職員会議で検討した結果を家族へ伝えるといった誠意ある対応を行っている。要望箱へは家族ばかりでなく、職員からケアに関しての提案が寄せられたこともあり、日々の支援に対する真摯な姿勢がうかがえる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	南島原ケア研究会の勉強会は毎月開催されており、可能な人は多く参加できるようにしている。経営コンサルタントセミナーにも管理者が職員を同行したり、外部研修の機会を多く作るようにしている。職員会議においての伝達講習や職員各自の職歴を活かしたマナー講習といった内部研修の充実も図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア研究会の活動などにおいて管理者が積極的に活動されており、「職員のケアの均質化」をホーム内に留まらず広く視野に入れて考えている。特に交流のある事業所とは行事などを通して職員間の交流と互いの学びの機会を設けている。今後、職員の医療的知識の必要性を重視しており、その点で取り組みがなされている事業所への訪問、交流を検討している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他施設から入居される場合は、家族に見学してもらい、納得していただいた上で、本人とホーム訪問してお会いし、家族へも自宅訪問し話し合いを重ねながらサービスの開始へと繋げている。施設と違い、出来る限り自分で出来ることは自分でしていただくことに、混乱が起きないよう慣れていっていただく支援に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごししながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「入居者も職員も共に快適に幸せに過ごしたい」の言葉が常にあるため、互いが共に労わり、笑いあう暮らしを大切にしている。介護の中で、笑顔で応えてくださる入居者に職員は励ましとやりがいを感じることができている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に聞き取りや家族との情報交換により基本情報を作成して生活歴、意向の把握に努めている。その後の変化においては月1回のケア会議において情報を集約しケア会議報告書に記録して職員間の情報の共有を図っている。	○	職員全員が入居者の情報をより把握しやすく共有できるよう、入居時にとられた基本情報にその後現在に至るまで加えられた情報を一括して把握できるフェイスシートのような材料を作成されることが望ましい。また、新規職員による入居者の情報把握や、非常時の持ち出し書類となることも考慮して統一したケアを図る為に取り組まれることに期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者との会話や日常の気づきの中から意向を把握して、毎月のケア会議において職員で話し合い、計画作成担当者が立てた案を家族に見ていただき意見を頂く形でプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは3ヶ月に設定し、入居間もない場合や状況変化に応じて1ヶ月ごとの見直しとするなど柔軟に対応できる計画としている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の支援を行っている。敷地内にあるプレハブの離れでは通常運営推進会議などのホーム内の会議や家族との行事に使用しているが、地域や他事業所の依頼に応じて会合、宿泊などの利用に開放することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への継続した受診支援に努めている。通院支援をおこない、受診の際はバイタルチェック表を持参し主治医へ提示している。受診結果は面会時または電話で必ず家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針としては家族の要望に応えたいとしており、希望があれば医療措置の必要状況によって判断しホーム内において介護支援に努め、管理者の自宅もすぐ傍にあることから緊急時の対応も含め準備態勢を取っている。その為にも今後個々の職員の医療的知識の必要性を感じ、研修の機会を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族、訪問される第三者の意見に耳を傾けながら、スタッフの言葉掛け、対応に関して、管理者は全体会議において確認しあう機会をもつようにしている。記録、書類などは事務所においてきちんと管理されている。	○	共に日々を過ごす者同士として、方言を交えた親しみのこもったやり取りは決して否定されるものではないが、支援において入居者に対する尊厳の姿勢を忘れることなくTPOに応じた言葉掛けへの配慮が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、業務優先とならないよう自由に過ごしていただくように心がけている。午前中の体操は声かけて毎日決まった時間に行い、活動的な時間の設定をしているが、皆さん自主的に参加いただいている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫された野菜が食卓へのぼることもあり、栄養バランスの取れた食事が提供され、可能な入居者には準備、後片付けも手伝っていただいている。屋外でバーベキューなどを職員と共に楽しむ食事を努めて設ける取り組みもなされている。昨年評価の指摘における日常の食事を職員も共にする取り組みへはまだ至っていない。	○	皆で食事を共に楽しむ支援は、屋外での食事や行事の機会を利用してなされているが、日常の食事においてもまずは職員1名から検食という形で同じ食事を共に食卓でとる取り組みに期待したい。栄養や嗜好へ配慮している取り組みをより活かし、同じ食卓で共に食事をする中で得られる気づきを今後のサービス向上に反映されることが期待できる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に沿えるよう、毎日の入浴が可能な柔軟な取り組みがなされている。状況に応じて清潔保持のために、シャワー浴、清拭を随時行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の持つ力を発揮されるよう家事へは積極的に参加していただいている。食材の下拵えや後片付け、畑での作業、草取り、調査当日は雑巾縫いに精を出される入居者の姿が見られた。楽しみ事としては、押し付けにはならないようレクリエーションに参加して頂く中で風船バレーは皆で楽しんでいる。誕生会にはカラオケを楽しんだりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭や菜園へと広がる敷地及びその周辺の自然環境は広く、希望に応じて散歩へ出かけており、調査当日も付き添って散歩へ出られる支援がみられた。ホームのコンセプトの一つが青空の下での暮らしでもあるので努めて屋外への支援を行っている。通院を兼ねて気分転換のドライブや、買い物、計画しての少し遠方へのドライブもおこなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はされていない。デッキに繋がる掃きだしの窓に関しても開放されており、屋外の決められた場所で喫煙を愉しまれる入居者も自由に出入りしておられた。周辺に民家は少ないが、近隣の農業関連施設に出入りされる方が声掛けもしてくださる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の訓練をはじめ日常的に地域との連携を管理者を中心に努めて働きかけている。備蓄に関しては昨年の評価の指摘を受けて食料備蓄をチェックし、飲料水としての井戸水の点検、自家発電など備えに関しては万全の準備に配慮している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者のかかりつけ医である病院の栄養士から適切なアドバイスをいただいている。今年に入って入居者個人の疾病に関する食事指導のみならず、ホームの食事の献立の栄養バランスについてチェックしてもらい、職員も勉強会へ参加するなど食事提供のサービスに関して積極的に向上が図られている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓ガラスによって見守りがはかりやすい事務室を挟んで両脇に広がる各ユニットのリビング、食堂は行き来も開放的で、中間に位置するこたつが置かれた畳の間はサンルームとなっている。木材の床、壁にこだわり暖かな落ち着いた空間となっている。窓外の眺めは庭園が広がり、初冬の日差しの中でソファで寛ぐ入居者が多かった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃きだしの窓が広くとられ、風通しもよく明るい居室内である。個人差はあるもののそれぞれ使い慣れた家具、調度品、家族の写真等が持ち込まれ「その人らしい」部屋作りへの支援がおこなわれている。家族へも継続して本人の使い慣れた品物の持ち込みに関して働きかけを行っている。		